



平成17年3月期

第3四半期財務・業績の概況(連結)

平成17年2月10日

上場会社名 武藤工業株式会社

(コード番号:7999 東証第1部)

(URL <http://www.mutoh.co.jp>)

問合せ先 代表者役職・氏名 取締役社長

加賀 市喜

(TEL (03) 5486 - 1111)

責任者役職・氏名 経営企画本部長

東 誠三

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 ・法人税等の計上基準...法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。
 ・その他影響額が僅少なものにつき、一部簡便的な手続きを用いております。
- 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無
 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成17年3月期第3四半期財務・業績の概況(平成16年4月1日 ~ 平成16年12月31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

(百万円未満の端数切捨て)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第3四半期	21,612	12.8	983	71.7	1,088	85.6	623	154.3
16年3月期第3四半期	19,153	-	572	-	586	-	245	-
(参考) 16年3月期	26,501		949		1,049		622	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第3四半期	11.94	-
16年3月期第3四半期	4.61	-
(参考) 16年3月期	11.74	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比率であります。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第3四半期連結会計期間における世界経済は、米国・アジアにおいて景気拡大が継続し、欧州経済は堅調な回復がみられました。一方国内経済は輸出産業を中心に回復傾向があるものの、台風・地震等の災害に加え、原油価格の高騰による原材料の値上がりなど生産活動への影響もあり、いまだ厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループの第3四半期売上高につきましては、主力製品の大判フルカラーインクジェットプリンタが欧米市場を中心として、引き続き堅調に推移したことから、連結売上高は216億12百万円(前年同期比 12.8%増)となりました。

損益面につきましては、国内やアジア市場での競争の激化による低価格化傾向が見られるものの、欧米市場での売上高増加が寄与したこともあり、営業利益9億83百万円(前年同期比 71.7%増)、経常利益10億88百万円(前年同期比 85.6%増)、第3四半期純利益6億23百万円(前年同期比 154.3%増)となりました。

(2)財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり 株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
17年3月期第3四半期	30,134	18,301	60.7	350.52
16年3月期第3四半期	27,539	17,114	62.1	325.55
(参考) 16年3月期	28,532	17,386	60.9	332.86

(3)連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第3四半期	133	204	104	6,509
16年3月期第3四半期	574	99	201	6,279
(参考) 16年3月期	1,363	163	535	6,644

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

総資産は主に売掛債権の増加4億12百万円、たな卸資産の増加9億49百万円等により、前連結会計年度末に対し16億1百万円増加し、301億34百万円となりました。

[連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報等]

第3四半期末の現金及び現金同等物は期首に比べ1億35百万円減少し、65億9百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前中間純利益の計上10億85百万円等の資金増加要因があったものの、法人税等の支払いによる支出5億85百万円、たな卸資産の増加7億44百万円、売上債権の増加2億80百万円等の資金減少要因より、1億32百万円の支出(前年同期は5億74百万円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得による支出1億45百万円等により、2億4百万円の支出(前年同期は99百万円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済を推し進めたものの、一時的な短期借入金の増加があり、1億4百万円の収入(前年同期は2億1百万円の支出)となりました。

[ご参考] 平成17年3月期の連結業績予想(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

通期の業績見通しにつきましては、平成16年11月19日に発表いたしました業績予想を変更していません。

なお、業績予想を見直す必要が生じた場合には速やかに開示する予定です。